



## 静岡の想い出

徳川宗家十八代当主 徳川恒孝



私が祖父であり養父であった先代の徳川家正に連れられて静岡を訪れたのは、昭和三四年（一九五九年）の四月、東照宮例大祭の時でした。もう五〇年以上前の事ですが、から記憶は大分朧おぼろなのですが、たしか菊屋さんという市内の旅館に泊まりました。当時私は大学二年生で、ロンドンに転勤していた父のところに二年間行くことになっていましたので、その出発前に久能山東照宮に参拝をさせようと祖父が連れて来てくれたものです。（その前にも、私が徳川の家で養子に入ることが決まった中学生の時に、私の実家の会津松平家の父、松平一郎と久能、日光の東照宮に参拝していましたが、どちらも日帰りだったと思いますが、静岡に泊まったのはこの時が初めてでした。）

翌日、まだまだ「新しいもの」だった

たケーブルカーに乗って東照宮に登り、久能山の上から見渡した駿河湾は明るく、広々として穏やかで、本当に美しいものでした。この時の明るく美しい、そしてなにか伸び伸びとした豊かなところという強い印象は、その後毎年静岡を訪れるたびにさらに強まることはあっても、一度も褪せることはありませんでした。

世界中あちらこちらを回り、最近では日本の中も講演などで随分いろんなところに行くようになりましたが、この駿府静岡の持つている、なにかトンネルを抜けるとパーッと明るく伸び伸びとするような感じはとてども独特なもので、流石に家康公が晩年の住み家としてこの地を選ばれたところだ、と秘かに感じています。

さて、その静岡市の商工会議所の方々から、もうじき東照宮四百年祭もあることだし、なにか少しは静岡の為にチャンと働いたらどうか、との御要請（というか御命令というのかよく解りませんが）を受けました。まあ、何が出来るのか解りませんが、五十年以上お世話になっている静岡ですからお引き受けすることに致しました。

これからの世界は色々な難しいことが起こるのではないかと、老人は心配するのですが、この美しい静岡を守って、ここから豊かな「伸び伸び精神」を広げられれば、日本の為にも、世界の為にも素晴らしいことになると思っています。  
宜しく願います。

※徳川恒孝氏は平成二十四年四月、静岡商工会議所最高顧問に就任